

第27号 福ちゃん情報

発行月 令和7年4月
発行 福田地域センター
住所 長崎市福田本町10番地
電話 095-865-0111
FAX 095-834-4001
メール br_fukuda@city.nagasaki.lg.jp

R7年2月末	大浜町	小浦町	福田本町	小江町	柿泊町	手熊町	上浦町	計
世帯数	1,934	867	729	233	240	149	49	4,200
人口	3,927	1,736	1,475	430	499	300	117	8,484

福田地区ふれあいセンターがスタートしました

福田地区公民館が、福田地区ふれあいセンターに生まれ変わり、これからは、福田小学校区コミュニティ連絡協議会が運営をおこなっていきます。ふれあいセンターは、気軽に集まり、楽しく学び、心のふれあいを深めるところで、研修室などの機能を備えた「まちの茶の間」的な施設ですので、お気軽にご利用ください。

<ごあいさつ> 福田地区ふれあいセンター所長 中村 勝文

令和7年4月1日より、福田地区ふれあいセンターがスタートしました。これからは、その名のとおり地域の皆さんのふれあいの場所として、また、地域の活動の拠点として運用されていくことになります。多くの方にご利用いただきたいと思いますので、気楽にご相談ください。

私たち職員一同、皆さんの代表として、ふれあいセンターを管理し笑顔とあいさつがあふれるセンターづくりをめざします。よろしくお願いたします。

4月1日から、電話番号や利用料金に変更されていますので、お知らせします。

開館日	月～土曜日 (12月29日から1月3日を除く)
開館時間	9時～17時 (図書室は16時30分終了)
電話・FAX	095-865-0116



図書室内に事務室があります。

種別	室利用料金
集会室	1時間につき 310円
調理室	1時間につき 100円

種別	付属設備利用料金	
冷暖房	研修室	1時間につき 200円
	調理室	1時間につき 140円
ガス	ガスコンロ (1口)	1時間につき 40円
	ガスレンジ (1口)	1時間につき 50円
	ガス炊飯器 (1口)	1時間につき 90円
複写機	1枚 10円	

福田中学校が学校安全総合支援事業の指定校として活動します

文科省が指定する学校安全総合支援事業（防災教育）の令和7年度の長崎県の指定校に、福田中学校が選ばれました。

高田校長先生は、「実践的な避難訓練の実施」「避難所の運営」「引き渡し訓練」を大きな柱として考えており、避難所の運営は、専門家のアドバイスをいただきながら大規模災害時の避難所を学校と地域で連携して運営する方策を研究したいと話しておられました。また、災害や不測の事態が発生した場合に生徒を保護者に引き渡す「引き渡し訓練」では、東日本大震災等での事例を参考に、小学校と連携し保護者へのスムーズで安全な児童・生徒の引き渡しについて考えていくとのこと。この防災教育を通して、いざというときに備えた家庭内の話し合いや地域とのつながりを図っていき、災害安全文化を学校から家庭や地域に広げていきたいとの意気込みを語っておられました。近年は大地震や大雨など大きな災害が頻発していますので、福田中学校の本年度の活動に御協力をお願いします。

「モットモ」が開催されました

国の選定する無形民俗文化財である「モットモ」が、手熊町では節分前日の2月1日（土）に、柿泊町では節分当日の2月2日（日）に、それぞれの自治会によって行われました。

「モットモ」は、年男・福娘・モットモ爺の三人一組で家々を巡り、家中で年男が「鬼は外」と唱えながら豆をまき、これに福娘が「福は内」と唱えながら続き、最後にモットモ爺が「モットモー」と大声で叫んで床を踏み鳴らしたり、手にした杖で床を激しく突きながら、厄を払い、福を招く節分行事です。

モットモ爺の迫りに驚いた子どもたちは大泣きしながら逃げ回っていましたが、この行事では「子どもが泣けば泣くほど福を呼び込む」と言われており、大きな泣き声が響くほど、ご利益があるとされているため、今年も数多くの家々に福がもたらされましたよ。

また、ほかの町でも節分行事が行われているようですので、来年は、そちらのほうも取材したいと考えています。



手熊町



柿泊町

防災備蓄品が贈呈されました

3月12日（水）に防災備蓄品の贈呈式が行われ、長崎サンセットマリーナ株式会社から福田小学校区コミュニティ連絡協議会へ防災用のランタン150個が寄贈されました。同社は、昨年度も非常食などを寄贈しており、今後も防災備蓄品の寄贈や防災訓練への協力など、地域貢献活動を続けていただけるとのことです。詳しくは、福田小学校区コミュニティ連絡協議会の広報紙「こだま」をご覧ください。



福田バイパス建設促進期成会総会が開催されました

2月14日（金）に、福田バイパスの建設を促進し、地域の健全な発展に資することを目的に活動している福田バイパス建設促進期成会の総会が開催されました。

総会では、役員改選のあと、令和6年度の活動報告があり、最後に「**長年の懸案解消に向けて根気強く要望していき、福田バイパス早期着手に向けて、地域全体で熱意をもった行動で示していく。**」という思いを再確認されていました。

また、総会には、長崎県議会議員がご来賓として、長崎県、長崎市が説明者として出席し、長崎県からは「国道202号線の現状について」の説明があり、長崎市からは、交通環境の改善に向け、一般国道同202号の整備促進と、（仮称）福田バイパスの早期事業化のため、国、県、県議会への要望活動の実施状況の説明がありました。

質疑応答では、子どもたちの通学時の安全安心のために福田地区の交通環境の改善を求めるなど、地域を思う貴重な意見が出されました。

早期実現には地域の機運醸成は不可欠ですので、皆様のご理解とご協力を宜しくお願いします。



福田の史跡や景観を紹介します

地域のことをより知ってもらうために、福田の史跡や景観などについて紹介する取り組みをスタートします。

第1回は、国道202号沿いの福田地域センター近くの墓地の前にある3体の石碑について、福田小学校区コミュニティ連絡協議会の中村勝文さんにお聞きしました。

石碑は、いずれも福田ゆかりの力士の記念碑で、向かって右が虎ヶ濱関、中央が福田山関、左が鷹勇（たかゆう）関を称えたものです。石碑の記載では、虎ヶ濱関の碑は残念ながら名前の記載のみでしたが、鷹勇関は、江戸後期に活躍した力士で西大関まで上り詰め、横綱になろうと精進しているときに病気になる、福田に帰ってきたと記載されており、福田山関は、明治初期に活躍し、25歳で名をあげ45歳まで活躍したそうです。

